

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 4 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380713

研究課題名(和文)近代の都市形成と軍用地 - 戦争アーカイヴ活用による歴史社会学的研究

研究課題名(英文) Historical Research of Urban Development in 20 Centuries Focusing on Military Space and Industries

研究代表者

武田 尚子 (Takeda, Naoko)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：30339527

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：近代の都市形成について、軍用地および労働者に着目し、実証的研究を行った。近代東京における西南部の軍用地の展開について、戦前期の土地所有状況を調査し、軍用地化する以前の地域社会構造を明らかにした。また、軍需産業と労働者の生活構造について実証的研究をおこない、軍需工場の立地によって、工場労働者が増加し、労働運動が発展するなど、社会構造の変革につながる動きをとらえることができた。

研究成果の概要(英文)：I analysed the relationship between military industries and local communities in Japan. I found the close relationship between the life of the working class people and the military space and industries. As military industries had developed, the number of workers increased. The movement of union had developed there.

研究分野：社会学

キーワード：近代都市 軍用地 軍需産業 戦争アーカイヴ 歴史社会学

1. 研究開始当初の背景

20世紀に起きたふたつの世界大戦はそれまで人類が経験したことがない未曾有の総力戦で、社会に大きな変化をもたらした。2014年は第一次大戦勃発から100年、第二次大戦勃発から75年を経過した節目の年に当たる。日本において、戦争を対象とした社会科学的研究はおもに歴史学分野で進められてきた。

しかし、戦争の影響は多方面に及んでいるため、近現代社会の形成とどのように関連しているかを深くとらえるには歴史学的方法だけでは不十分である。社会学的視点や分析方法を生かして、近現代社会と戦争の関連を解き明かし、平和の構築に貢献することは学術的にも社会的にも大きな意義がある。

終戦から一定の年数が経過したが、戦争については時間を経たからこそ、語られるようになった経験や、当事者の逝去によって、公開・閲覧が可能になった戦争資料などがある。戦争をめぐる新たに切り開かれる研究領域があり、戦争と近現代社会の関連を多様な側面から研究する動きが国内で活発化している。

日本では敗戦の痛みから、戦争遺産を直視することや、戦争資料の活用に距離をおくことが長く続いた。そのため、日本における戦争研究は未開拓の部分が多い。近代の都市形成と軍施設の関連の分析は、近代の都市・地域社会研究における欠落した部分である。その理由は、戦争資料に対する研究者の忌避・無関心と、戦争アーカイブ利用の利便性の低さによるものと思われる。

先行研究が戦争遺産への視点を欠落させている点を補完し、従来とは異なる視点から近

代都市形成の重層的なしくみを照射するため、本研究は戦争アーカイブを活用して、近代都市を対象とし、軍用地（衛戍地、軍需工場、軍施設を含む）建設と、都市基盤整備の過程との関連を明らかにする。また、軍用地の労働者に着目し、労働状況、生活状況について明らかにする。

2. 研究の目的

20世紀は「戦争の世紀」で、近代的軍隊が組織され、大都市では軍需産業が成長した。本研究は、20世紀前半の近代都市を分析対象とし、戦争アーカイブを活用して、軍用地や軍需産業と近代都市形成の関連について明らかにすることを目的とした。また、近代都市で働く労働者の労働・生活状況に着目し、ミクロな生活構造とマクロな社会構造の関連について分析することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では戦争アーカイブとして、防衛省防衛研究所所蔵史料を活用した。日本における重要な戦争研究の一次史料であるが、史料価値の大きさに比して、利用される頻度は低かった。社会学の学術研究でこれを用いた先行研究は見当たらない。利用頻度が低かったのは、史料の分類方法が特殊で、閲覧の制限が大きかったからであろう。本研究は、近年、防衛研究所史料の利便性が向上した状況を生かして、防衛研究所史料を主要資料にすえて、他機関所蔵資料を相互参照し、次のような2つの方法で、調査・研究を進めた。

(1)近代都市の形成と軍用地・軍需産業との関連に関する実証的研究、

(2)近代都市における労働者の労働および
ミクロな生活構造とマクロな社会構造
の関連に関する実証的研究

4. 研究成果

(1)近代都市の形成と軍用地・軍需産業との
関連に関する実証的研究については次のよ
うな研究成果が得られた。

「都心地域：渋谷・代々木・世田谷」を
分析対象に戦前期の土地所有状況を調査し、
軍用地化する以前の地域社会構造を明らか
にした。具体的には、渋谷道玄坂の変容と
地付層の関連を明らかにし、軍用地建設ま
での経過を解明した。東京西南部は、およ
よそ次のような変容プロセスをたどった。

明治期から大正期にかけて、東京市西南
部の郊外地域の土地利用は変化し、人口が
流入し、都市化が進展した。これにともな
い、渋谷道玄坂周辺には遊興・消費空間が
形成されていった。

渋谷道玄坂の変容を探る一つの方法とし
て、近世以来の道玄坂の居住者であった吉
田平左衛門家に着目し、吉田家に関する歴
史的資料に基づいて、地域社会における吉
田家の社会的位置づけの変遷を考察した。
吉田家は江戸期から道玄坂沿道に居住して
おり、富士講の講元としても著名であった。
また、明治後半には渋谷村村会議員を務め、
地域社会で一定の社会的威信を有していた
家である。渋谷道玄坂周辺は、近世は江戸
近郊の農村であったが、明治になると商品
作物の流入が増加し、商取引も活発に行わ
れるようになった。産業化・都市化に即し
て、流入者が増加し、吉田家のような地付
層が地域社会で占める位置は変化していっ

た。このような歴史的蓄積がある町村が、
近代に同一の行政区分に入ることによって、
どのように共同問題に対処すべきか、新た
な連帯のしくみを作る課題に直面すること
になった。つまり、幕政期の旧慣そのまま
ではなく、近代の地域社会の慣行を作り出
すことが必要になった。吉田平左衛門家
を通して、道玄坂の変化を通時的にたどる
ことによって、道玄坂にこのような空間的
特徴があることが明らかになり、道玄坂自
身の地域特性の一端が解明された。

(2)近代都市における労働者の労働および
ミクロな生活構造とマクロな社会構造の関
連に関する実証的については次のような研
究成果が得られた。

「都心地域：丸ノ内、日本橋、京橋」を分
析対象に戦前期の軍需産業が住民の生活に
与えた影響、とくに生活構造を歴史的アー
カイブを用いて、食物を通して、軍需産業と
生活実態を描き出すことを試みた。軍需産
業の立地によって、工場労働者の増加、労
働運動の発展など、社会構造の変革につな
がる動きをとらえることができた。

明らかにできた内容として、大正期にお
ける京橋地区の月島における労働運動の進
化プロセスがある。これはこれまでの研究
では明らかにされていなかった労働者の生
活改善運動の一面を掘り起こすことにつな
がった。

また、日本橋地域における物流体系の実
態、再編成と物流構造のなかでうみださ
れる下働きの人々、つまり周縁的存在の発
生プロセスについても掘り起こすことが
できた。具体的には近代交通システムが整
う以前に荷車

の時代があり、日清戦争に東京から多数の荷車が徴発された実態、影響を明確にした。

さらに、近代東京におけるミルク需要と供給の関係を明らかにした。近代日本で牧畜が始まって、さほど受容がひろがらなかったが、軍隊が軍用食糧に取り入れることによって、牧畜業が進展し、牛乳普及した一面を明らかにした。

とくに海軍においては脚気などの予防対策のため、カルシウムや良質のタンパク質の摂取は重要で、長期の航海に缶入り牛乳を大量に軍艦に搭載した。また、このような軍需の利用に供するため、都市郊外における牧羊場の開発が進められたが、需給関係に影響されて、永続的に牧場経営を存続させることは難しかった。その後、広大な農業地がどのような土地利用に転換されていったかをあきらかにした。

5. 主な発表論文等

〔図書〕(計4件)

武田尚子、『20世紀イギリスの都市労働者と生活 - ロウントリーの貧困研究と調査の軌跡 - 』、2014年、ミネルヴァ書房。

武田尚子、『ミルクと日本人 - 近代社会の「元気の源」 - 』、2017年、中央公論新社。

『荷車と立ちん坊 - 近代都市東京の物流と労働 - 』、2017年、吉川弘文館。

武田尚子、『アマの領域のモノグラフ的探究』、鳥越皓之・金子勇編『現場から創る社会学理論』ミネルヴァ書房、2017年:113-123。

〔雑誌論文〕(計5件)

武田尚子、『貧困地域と非識字者への視点 - テレビ草創期のNHKドキュメンタリーと地域社会研究』『社会学評論』65(4):486-503, 2015年、日本社会学会。

武田尚子、『渋谷道玄坂の変容と地付層 - 富士講講元・吉田平左衛門家の近世・近代』『生活文化史』68, 2015年、日本生活文化史学会:19-56。

武田尚子、『質的調査データの二次分析 - 大正期「月島調査」と労働運動』『日本労働研究雑誌』665:70-80, 2015年、独立行政法人労働政策研究・研修機構

武田尚子、『近代新興実業層の経営資源と社会移動プロセス』『生活文化史』70, 2016年、日本生活文化史学会:3-77。

武田尚子、『近代漁業のマクロ構造とローカルな新興漁業経営者層の台頭 - 大正期における播州室津漁民の朝鮮出漁 - 』『生活文化史』72, 2017年、日本生活文化史学会:44-73。

〔学会発表〕(計12件)

'How to Tackle the Vacant-House Problem in Shrinking Cities: The Cases of Japanese Local Governments' International Sociological Association, World Congress of Sociology, 14th, July, 2014, Yokohama, Japan, Research Committee 21 Urban Studies

'Re-urbanization and the Local Food Culture : The Case Study of Central Tokyo' International Sociological Association, World Congress of

Sociology, 16th, July, 2014, Yokohama,
Japan, Research Committee 21 Urban
Studies

武田尚子、「近代東京と都市空間の形成 - 渋谷道玄坂周辺の変容」2014年9月11日、第32回日本都市社会学会(専修大学)

武田尚子、「西播磨室津における近代漁業秩序と村落 - 大正期の朝鮮出漁と漁業者集団 - 」2015年5月9日、第40回地域社会学会大会(東北学院大学)

武田尚子、「近代東京における物流体系の編成と周縁的存在」2015年9月12日、第33回日本都市社会学会(静岡県立大学)

武田尚子、「近代東京とミルク - 東京市社会局の児童保護事業と社会調査 - 」2015年9月19日、第87回日本社会学会大会(早稲田大学)

武田尚子、「大正期「月島調査」と労働運動」2016年9月3日、第34回日本都市社会学会(仏教大学)

武田尚子、「近代における箱根仙石原の開発プロセス - 牧場経営から温泉開発への移行」2016年9月25日、平成28年度日本生活文化史学会大会(神奈川大学)

武田尚子、「近代都市における新興自営業主の経営資源と社会移動プロセス - 渋沢栄一「耕牧舎」と芥川龍之介実父の搾乳業経営 - 」2016年10月8日、第88回日本社会学会大会(九州大学)

武田尚子、「近代東京における軍用地形成の歴史的要因：青山・千駄ヶ谷の土地利用の変遷」2017年9月9日、第35回日本都市社会学会(早稲田大学)

武田尚子、「近代東京と水車の利用 - 工業近代化と動力源 - 」2017年10月1日、平成29年度日本生活文化史学会大会(神奈川大学)

武田尚子、「大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究 - 近代東京の下層階級：アンダークラスの系譜 - 」2017年11月4日、第89回日本社会学会大会(東京大学)

6. 研究組織

(1)研究代表者

武田尚子 (TAKEDA NAOKO)

早稲田大学人間科学学術院・教授

研究者番号：30339527